

札幌都心部の にぎわいを創出する 新たな「回廊」 誕生から半年を振り返る

2011年春、札幌の都心部を南北に貫く札幌駅前通と創成川が大きく生まれ変わった。札幌駅と大通公園、創成川を挟んだ東西のエリアがつながったことで人の流れはどう変わったのだろうか。それぞれの施設を管理する札幌駅前通まちづくり株式会社と財団法人札幌市公園緑化協会にお話を伺った。



札幌駅前通地下歩行空間



札幌駅前通まちづくり株式会社
内川 亜紀 さん

●札幌駅前通地下歩行空間とは

2011年3月12日にオープンした地下通路。地下鉄札幌駅から大通駅まで約520mを結ぶ(地下鉄駅の地下道を含むと680m)。利用時間は5:45~24:30。通路の両側や交差点下に設けられた空間を広場として機能させている。

地元の振興会や周辺企業、商工会議所や札幌市が出資した「札幌駅前通まちづくり株式会社」が前年秋に設立され、地域の人たちによってまちづくりという観点から自主的に管理・運営されている。

他の地下通路とは ひと味違った空間を目指す

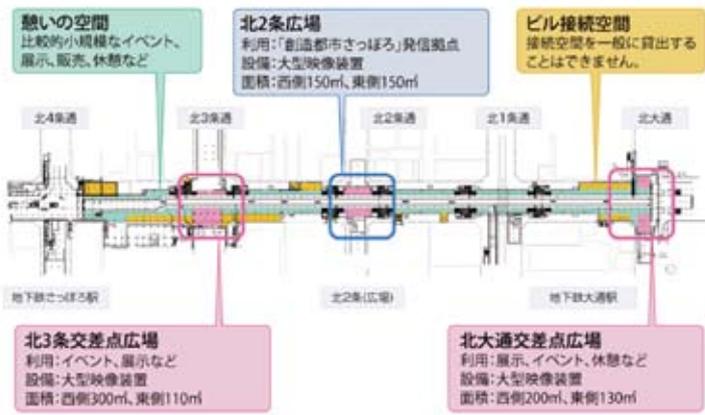
ー地下歩行空間の特色を教えてください。

内川さん(以下略):幅20mの通路の両側部分に「札幌駅前通地下広場条例」によって広場を設けました。中央の12m部分が白いタイルの歩行専用エリア、両側部分がグレーのタイルの広場エリアとなっています。各スペースには「憩いの空間」、「交差点広場」の機能を持たせ、パフォーマンスやコンサート、アート作品の展示から、販促や商品PRなどにもご利用いただけます。

通路を歩く際に全部が広告だと寂しいし、全部がにぎわっていても落ち着かないですね。緩急をつけることで四季を通じて歩いて楽しい空間にしたいと考えています。

ーオープンから半年、利用状況はどう推移しているのでしょうか?

オープン当日は東日本大震災の翌日にも関わらず11万人の方に利用していただきました。人混みで通路の端から反対側の憩いの空間が見えないほどでした。春先の寒い時期は利用者が多かったようですが、5月のゴールデンウィーク明け頃からは地上の方が気持ち良い気候になってきたので徐々に減少し、9月現在では1日5万人ほどの利用者となっています。



札幌駅前通り地下広場の概略。イベントスペースは商業利用の場合平日は4800円～、土日祝日で7,200円～。学生や市民団体等の非営利目的の場合は半額になる



歩行空間の天井には外光を取り入れるためのガラス張りの天窗「スルーホール」が設置され、地下とは思えない開放感がある

一どのような方がどのような目的で利用しているのでしょうか？

平日の朝は通勤で利用される方が多いですが、健康のために意識的に歩いている方もいらっしゃるようです。また、買い物などでいらっしゃる方も地上を歩くのと比較すると、天候にも左右されず、信号に止められることも無いので地下の方が快適だという方も多くいらっしゃいます。でも、お年寄りの方などからは逆に信号待ちがないから疲れるという声も寄せられています。

これから地下歩行空間が完成して初めての冬を迎えますが、イベントなどを通じて一年中雪の無い空間があることに新たな魅力を感じてもらえればと思っています。

一今までに開催した主なイベントは？

震災の影響でオープニングイベントを開催することはできませんでしたが、3月中には札幌を拠点として国内外で活躍するアーティスト7名による現代アート展「50m美術館」や、北海道で食品を生産する皆さんが選りすぐりの商品を持って参加する「札幌駅前通地下マルシェ～北のめぐみ愛食フェア～」そして音楽、美術、体育のそれぞれの表現を親子で楽しむことのできる「札幌こどもモード～親子向け遊びワークショップ～」などを開催しました。またYOSAKOIソーランまつりの際にはよさこいをテーマにしたキルト展を、サッポロ・シティ・ジャズ期間中にパークジャズライブを開催するなど、地上のイベントに連動させた試みも行いました。

ユニークなところでは札幌夏まつり期間中のピヤガーデンの時期に合わせた「ハイボールガーデン」などもありました。いわゆる立ち飲みスペースとして洋酒メーカーと一緒に開催したのですが、地下の広場でこんなこともできるといふことを知ってもらえたことは大きかったと思います。

一秋から冬にかけてのイベントは？

さっぽろ地下街オーロラタウン(オーロラプラザ)で行われていた「さっぽろ菊まつり」が主会場を地下歩行空間に移し

て開催されます。この他、札幌で活躍するアーティストの発表の場となる「さっぽろアートステージ2011」といった芸術系のイベントが続きます。「さっぽろ雪まつり」の際には札幌市内のイベントの告知や道内の観光PRの場として、この広場を大いに活用したいですね。大通公園や創成川公園と連動して都心全体を盛り上げることができたらいいなと思います。



4月下旬に開催された、北海道アスリートALL STARSによる震災チャリティイベント「まなざしの先に」。アスリートの「写真」と被災者に対するメッセージを漢字一文字で表現した「書道作品」が展示された

●地下歩行空間の利用調査結果

新聞等によりますと、地下歩行空間の開通により札幌駅前通全体の歩行者数は平日で2.5倍、休日で1.9倍となり、その8割が地下を通行しています。そのうち約7割の方が地下歩行空間を選択した理由に「快適性」を挙げています。内川さんのお話にもありましたように「天候を気にしないで歩ける」、「信号等が無くスムーズに通行できる」といったことを皆さん快適だと感じているようです。ちなみに札幌駅前～大通間の徒歩での平均的な移動時間は地上で11分、地下で9分と地下のほうが2割ほど短縮されています。

制約もあるが「道路」ならではのメリットも

一地下ならではの苦勞はありますか？

地下歩行空間は条例で「広場」が設けられていますが、法律上は「道路」です。そのため地下ゆえの、というよりは道路ゆえの制約があります。例えば、通路中央の白い



毎月第3金曜日に開催する「FRIDAY JAZZ NIGHT」。主催はサッポロ・シティ・ジャズ実行委員会。ジャズの生演奏を聴いたことがない人が通りがかりで参加するなど、ジャズファン拡大の効果も期待される

タイル(歩行専用スペース)の部分は、円滑かつ安全な通行を確保するために、はみ出して活用することはできません。また、大きなイベントの際には、安全性に配慮するため占有物件の配置や重量などを記載した図面やリストを事前に提出する必要があります。他に類をみない空間であるため、試行錯誤しながらイベントを開催してきました。今後もこの空間にふさわしい使い方やルールづくりを求められていると考えています。

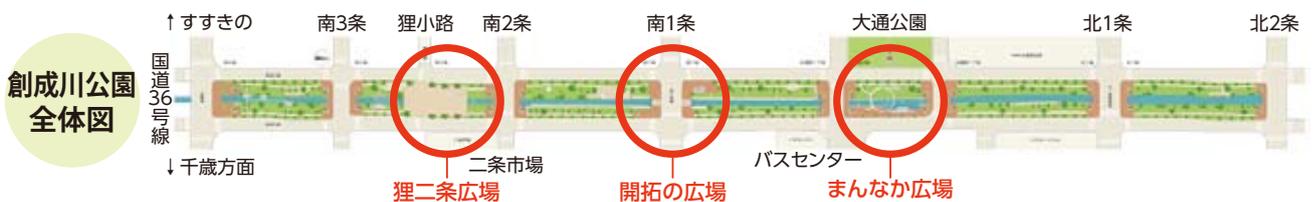
この他、火気が使用できない等一般的なスペースと同様の制限はありますが、札幌の目抜き通りとも言える場所で不

特定多数の人の目に触れるイベントが天候に左右されずに開催できることは大きなメリットだと思います。例えば芸術・文化系のイベントは興味がある人は美術館や博物館などに行きますが、興味がなければ目に触れることもありません。でもここで展示していればたまたま通りがかりで興味を持ってもらうこともできます。このメリットをチャンスとして捉え、ここから若い人がどんどん羽ばたいていって欲しいですね。

—ありがとうございました。

●チカチカ☆パフォーマンススポット

札幌や北海道の大道芸人は冬場に活躍の場が制限されてしまうため、「活動の場を提供する」、「広場のにぎわい創出する」ことを目的に8月下旬にオーディションを開催。15パフォーマーが合格となり、2012年3月までの間、定期的にパフォーマンスが繰り広げられている。3月に再度オーディションを開き、第2期のパフォーマーを選出する。「できるだけ若手に機会を与えてレベルアップを目指しています。ゆくゆくは世界に通じるパフォーマーを輩出したいですね」(内川さん)



創成川公園全体図

創成川公園



財団法人札幌市公園緑化協会 事業課 創成川公園
中村 佳子 さん

●創成川公園とは

南5条～南2条間と大通～北3条間の南北2つのアンダーパスを連続化したことにより、地上部分に生まれた4車線部分の空間に整備された公園。アンダーパス部分は2009年3月に開通し、2011年4月1日既存の緑地とあわせて全長820m、18,000㎡の公園部分が完成した。

創成川の東西をつなぐ憩いの場

—創成川公園の見どころを教えてください。

中村さん(以下略):まず創成川の東西のエリアをつなぐ3つの広場です。狸小路と二条市場を結ぶイベント広場「狸二条広場」、南1条通の創成橋を中心に歴史的なモニュメントが残る「開拓の広場」、大通と創成川通が交わる札幌の東西南北の中心となる「まんなか広場」と、地域や歴史的な背景を元に各広場に特徴を持たせています。

次に公園内に点在するアートワークです。「まちと人をつなぐ」、「札幌を表現する」をコンセプトに団塚栄喜、西野康造、安田侃の3名の作品が広場や河畔の芝生などに設置されています。

また、ヘメロカリスやハギなどがどのブロックにも均等に配置されています。かつては創成川河畔のシンボルだったシダレヤナギも見られます。

以前は川に近づくことができませんでしたが、現在は階段で水辺まで降りることが可能になりました。ここを流れている水は豊平川から取水したもので、鴨々川を通ってきた

ものです。川の中に飛び石が設置されているため安全性を考慮して流量を毎秒0.3tに制限しています。



現地には案内所がないため、ライラックまつり期間中に臨時の案内所「創成川公園オープンインフォメーションセンター」を設置

季節に合わせたイベントを開催

ーオープンして半年、どんな方が利用していますか？

イベント時は観光客や市内各地からの利用者もいらっしやいますが、平日は圧倒的に地元の方が多いです。周囲には仕事をリタイアしてご夫婦2人で暮らしているようなマンションが多いので、毎日散歩に来ている方もいらっしやいます。昼時はオフィスのOLやサラリーマン、専門学校の学生などで公園のベンチがほぼ埋まってしまう。また、公園だと知らずに通過する方も多いようですね。

ーどんなイベントが開催されているのでしょうか？

5月22日に狸二条広場で開催された「創成川公園ふれあいフェスタ」を皮切りに、大通公園のビヤガーデン期間中にはこちらでも小樽ビールに出店してもらってビヤガーデンを開催しました。9月には秋祭り、10月にはハロウィン、1月にはスノーキャンドルのイベントもあります。ここでのイベントは地元町内会と二条市場の組合、狸小路商店街、札幌市による「狸二条広場運営協議会」が管轄しています。近くに病院があるため音の大きさに制限がありますが、コンサートも開催しています。



7/21～8/15の25日間にわたって開催された「創成川公園・狸二条広場ビアガーデン」



植物ボランティアは月1回程度、お助け隊は毎月第1・第3水曜日の午前中に活動。双方に重複して参加する方もいるとか

地域の人に親んでもらえる公園に

ーその他、定期的な活動は行われていますか？

地域の方に積極的に関わってもらえるように、ボランテ

ィアを募集しています。「植物ボランティア」は庭いじりをしたいが自宅ではできないという都心部の状況を考慮して、1年間植物の専門家に指導を受けて勉強しながら園内の植物の管理をしていただくものです。また可能な時だけ参加していただける「創成川公園お助け隊」は、除草やモニュメントの清掃、花の名札付け、イベントの手伝いやガイドツアーなど内容は多岐にわたります。この他、社会貢献事業の一環として近隣の企業の方による清掃ボランティア活動も行われています。

ーどんな公園にしていきたいですか？

隣接する大通公園は時間の流れが早くてちょっと緊張して利用するイメージがありますが、こちらは時間の流れがゆっくりとしていますよね。印象的だったのはイベントの際に近くの人がなんだか音が聞こえたからと普段着とサンダル履きで来ていたことです。さすがに大通公園にはサンダル履きでは行かないですよ。そんな地元の人とちょっと遠くから集まっていたいただいた方の出逢いがあるように、広場を活性化して、毎週末には必ずイベントがあったり朝市の開催なども検討したいと思います。

ーありがとうございました。

●札幌創世記の歴史が刻まれた公園



明治43年に架橋された創成橋。アンダーパス連続化工事の際に一時解体されたものを復元した。この橋を中心とした開拓の広場には創成川の元になる「大友堀り」を造った大友亀太郎の像やかつて存在した南一条交番をモチーフにした休憩所がある。



明治6年に北海道の道路の起点として設置された北海道里程元標を復元したもの。その後大正8年に旧道路法が改定されたため、道路元標は道庁敷地内に移設された。

●河畔にできた花の道

園内には早咲きから遅咲きのもので30種類200本ほどのライラックが植えられている。またデイリリーとも呼ばれるユリ科のヘメロカリスは20種類、秋の七草に含まれるハギなども植えられている。



フロア1953(フレンチライラック)



アンデン アン ルートヴィヒ シュベート(フレンチライラック)



ステラデ オロ



トゥーシーローズ



ハギ